

べた掛け用不織布の効果確認試験

JAようてい
近石 公夫



5.15(左サンライズ、右パオパオ)



6.4(左サンライズ、右パオパオ)



6.12(左サンライズ後、右パオパオ後)



7.4(左サンライズ後、右パオパオ後)



5.22降雨(サンライズ継ぎ目)



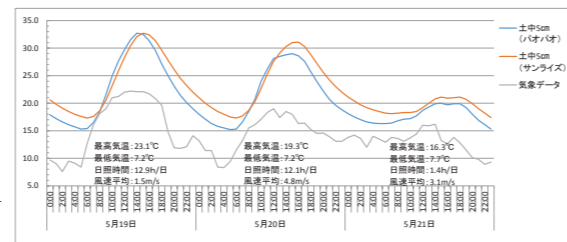
5.22降雨(左パオパオ、右サンライズ)

試験目的

べた掛け作業省力化に向けた不織布の効果確認

試験作物 及び品種

人参(晩抽天翔)



試験資材 及び数量(規格)

サンライズ
(10.0m×100m) 1本

慣行資材

パオパオ(10.0m×100m)

栽培方法

播種日
5月4日

収穫日
8月下旬

【栽植密度】
畝幅：25cm
株間：5cm

資材使用期間

5月5日～6月中旬

試験区面積

1000㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

パオパオと同規格であったが、サンライズが多少重く感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

収量調査は実施していないが、生育や収量で大きな差はみられなかった。

土上と不織布の間の温度が65℃になったタイミングもあったが、作物の葉焼けの影響はなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

サンライズ、パオパオとも展張時や使用中に破けることはなかった。

強風による剥がれはなかった。また、継ぎ目からの裂けや破けもなかった。

サンライズで一部、鹿が歩いた形跡があり、丸い穴が開いていた。破れは広がっていなかった。

(4)保温効果について

土中(5cm)→午前中の温度は、パオパオが若干高く推移した日もあったが、午後から朝方にかけては、サンライズの温度が高く推移した。

空間(土上と不織布の間)→パオパオと比較するとサンライズの日中(朝～夕方)温度は高く推移し、夜温は同等で推移した。

※目視：パオパオと比較し、目合が均一で細かく、厚く感じる。また、サンライズは白さが目立ち、土の色はうっすらとしか見えない。

モニター感想

今回の試験では、パオパオと同じように使用できたため、耐久年数によっては使用しても良いと思っている。また、海外で製造しているため、価格が現行より安くなるのはうれしい。

サンライズはパオパオと比較すると、風抜けが少なく感じるため、気温が温くなる時期は注意して使用する必要があると感じた。しかし、製品特徴さえ理解すれば、安心して使用できる資材だと思う。

今回の温度計測で夜温の確保ができることはメリットがあると感じる。

なぜかサンライズ区で野良芋の発生が少なかった。理由ははっきりわからない。

JA担当者の感想(営農推進課 西海センター長)

【営農推進課】

パオパオも気象条件(温度・風・雨など)や新しく購入したタイミングで葉焼けの可能性は必ずあるため、サンライズに限ったことではない。既存品と比較し、違いを理解してもらった上で使用してもらいたい。この地区では2年間試験を行い、葉焼け等の大きな問題は発生しなかった。今後、使用年数がパオパオと比較して同等以上であれば購入者が増えていくと考える。また、製品紹介のため、サンライズのパンフレットを作成してほしい。

【真狩生産資材拠点センター】

作物の葉焼けを心配していたが、2年間のサンライズ試験で発生しなかったため、パオパオと比較しても製品に大きな差はないと考える。購入希望者には試験結果を基に製品説明を行い、販売していきたい。

不織布のべた掛け期間中は、温度、風、雨、日照などの兼ね合いで葉焼けが発生するため、今後も注意喚起を行っていきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。
不織布は毎年少しずつ更新しているため、耐久年数がパオパオと同等であれば、購入する。